

元禄 15 年(1702 年)に検地を受けた「泉尾新田」は和泉国^{つくの} 踞尾村^{きたむらろくえもん}の北村六右衛門が元禄 11 年(1698 年)に開発に着手し、もとは三軒家浦新田と称していましたが検地を受ける時に、北村氏の出身の国名と村名から一字ずつをとり「泉尾新田」と名付けました。二重の堤をめぐらし、沖堤は尻無川と三軒家を結ぶ、高さ 9m の堤防で、現在の尻無川防潮水門から北村公園(一部、今でも堤跡の斜行道路が見られます)の北側を通り、千島バス停を越え、泉尾東小学校の南側を通っていました。中堤は泉尾工業高校の北側を通り泉尾東小学校まで、高さ 5.4m の堤防で、沖堤と中堤の間は水田、中堤の中は畑でした。

面積は、明治初期にはその後の開発も併せて 125 町の大新田となりました。新田内は「井路」と呼ばれる用水路が縦横にはりめぐらされ、かんがいや排水、舟運による運搬路となりました。

宅地は尻無川沿い(北泉尾)と三軒家村西側(南泉尾)の 2 ヶ所 45 戸だけで、^{ひょうびょう} 標 渺 たる農地が広がっていました。作物は棉と西瓜^{わた すいか}が良く獲れました。また、新田の事務を行うために、南泉尾(現在の三軒家東 5 丁目附近)に瓦葺の立派な「会所」を置きました。

明治時代になり北村六右衛門が破産処分を受け、負債償却を目的に設立された土地会社の所有になりました。



『大正区ホームページ』から転載

